

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500764
法人名	医療法人 牧山医院
事業所名	グループホーム 虹
所在地	〒856-0808 長崎県大村市黒丸町1653 - 1 (電話) 0957 - 55 - 6712

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(H21年 2月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 16年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 ~ 33,000 円	その他の経費(月額)	寝具リース、水光熱費13,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(2月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	牧山医院・坂口歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

年々宅地化が進んでいるが、遠景や周辺に残る野菜畑に自然ののどかさが残る住宅地に当ホームは立地している。宅地化で住民も増えつつあり、すぐ近くに地域コミュニティセンターも新設され地域活動の中心となる中、当ホームも活動に積極的に参加し、より一層地域連携を図っていききたいとしている。母体が医療法人であるということは、理念にも掲げているが入居者、家族の信頼と安心は大きく自他共に認めるところである。法人母体医院のバックアップのもと、重度化、看取り支援に関しては医療連携とホームのこれまでの経験が活かされ充実していくものと思われる。従来、1階、2階ユニットはそれぞれ独立したかたちで日々の支援に努めてきたが、管理者の異動をきっかけに双方の連携、協働の機会がうまれた。今後は入居者、職員間の交流を促進する活動を共に行い、その中で多くのメリットが得られよりよい支援に繋げていくことをスタッフは意欲的に語られた。安心と共に、常にサービスの向上を目指す姿勢に期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価に基づき、計画作成シートを作成し改善に向け取り組んだ。改善目標である地域とのつきあいは、常にホームの課題として意識して取り組んできた。町内会、婦人会、老人会との相互交流を図り、地域連携として消防訓練のほか、家族の同意を得て地域の交番に入居者の基本情報を提出し協力を仰いだ。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は各職員にコピーした項目票を配り、気づき、思いを記入してもらった。最終的に各ユニットの責任者がまとめるかたちで約1ヶ月かけて職員全員で取り組むことができた。一つの項目でも方向性の違いによって複数の答えがあることで個々の職員の考え方の違いを認識し、統一した支援に向けて確認ができる振り返りの機会であったとしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、各ユニット家族代表、町内会長、老人会長、民生委員、市長寿介護課職員、管理者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。地域代表メンバーがそれぞれ協力的で地域交流に関して多くの助言、情報を伺うことができ、行政担当職員も議事の内容において専門的な部分を毎回補足としてお話しいただけるなど、活発な意見交換と協力により充実している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ケアカンファレンスの場を意見、要望聴取の機会とし、例えば入居者の個別の近況報告についての要望もその折にうかがい、ホーム新聞に記事を加える形で迅速に対応し家族に喜ばれた。家族の言いづらいつら立場を理解し日頃から家族と職員のコミュニケーションに配慮して、面会の際には「ここではゆっくりできる」と言って頂ける寛ぎを提供して会話の中で要望を伺うようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>昨年来、地域交流を課題として取り組んできた。昨秋は近隣のコミュニティセンターの祭りに参加し、催し物を見学したり町内の旧知の方と会うことができ入居者に喜ばれた。また婦人会において介護教室を開催し、今後も地域還元として発展させていきたいとしている。更に、世代間交流として現在の小、中学校に加え、幼稚園とも交流を図りたいとしており意欲的である。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度、「地域密着型」に対する意識と、文言が長すぎて覚えづらいという二つの点から全員で検討を重ね、新たに理念を打ち出した。『母体が診療所という安心感の中で』という部分がホームとしてアピールする点であり、入居者、家族、そして職員も文字通り医療連携に大きな安心と信頼を得ている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	身近でわかりやすい言葉となった理念はホーム内の目につく場所へ掲示され、ホーム新聞に掲載し入居者、家族、職員への浸透を図っており、理念の文言を書き写したものを通勤の車中に置き確認しながら勤務につく職員もいる。日常においても入居者本位に過ごしていただけるよう理念に沿った支援を常に目指す姿勢がうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年来、地域交流を課題として取り組んできた。昨秋は近隣のコミュニティセンターの祭りに参加し、催し物を見学したり町内の旧知の方と会うことができ入居者も喜ばれた。また、婦人会において介護教室を初めて開催し、今後も地域還元を発展させていきたいとしている。更に世代間交流として現在の小、中学校に加え幼稚園とも交流を図りたいと意欲的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員一人ひとりにコピーした項目票を配り、日常の支援についての気づき、思いを自身の言葉で記入してもらった。最終的に各ユニットの責任者がまとめる形で約1ヶ月の時間をかけて全員で取り組むことが出来た。評価を、1つの項目でも方向性の違いによって複数の答えがあることで個々の職員の考え方の違いを認識し、統一した支援に向けて確認が出来る振り返りの機会であったとしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、各ユニット家族代表、町内会長、老人会長、民生委員、市長寿介護課職員、管理者、職員を参加メンバーとして会議を開催している。地域代表のメンバーがそれぞれ協力的で地域交流に関して意見、助言を多く頂く事ができ、行政担当職員も議事の内容において専門的な部分を補足として毎回お話しいただけるなど、活発な意見交換により充実した内容となっている。		

グループホーム 虹

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において、積極的に発言、協力をいただいていることから、会議以外でも相談、連絡しやすい関係作りが出来ていると認識している。多忙の為、実際の参加はまだいただけていないが、ホームの行事の際は招待の案内をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各ユニットとも「新聞」を発行し活動の様子を伝えている。1階ユニットは、毎月の請求書と共にモニタリング担当の職員が個別の近況報告を書き添え家族へ報告している。2階ユニットは、個別の近況報告について家族の要望があり、他ホームの取り組みを参考に「新聞」に加えて記載し報告した。結果、家族に喜ばれお礼の葉書をいただける支援ができた。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアカンファレンスの場を家族からの意見、要望聴取の機会とし、例えば個別の近況報告についての要望もその折にうかがい対応することができた。家族の言いづら立場を理解し日頃から職員と家族とのコミュニケーションにも配慮して、面会の際には「ここではゆっくりできる」と言っていただけ寛ぎを提供しつつ会話の中で要望をうかがうようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に法人内での人事異動はないが、ユニット間で退職者が出た場合など人的配置による異動もある。今年度は1月に1階ユニットの管理者の退職があり若干、引継ぎ調整が困難であったが、それをきっかけに1階、2階ユニットの協働、交流の場面が増えつつある。職員の異動に関してはホーム「新聞」にて報告、或いは家族の訪問時に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は充実しており、2ヶ月に1回、Q(クエスチョン)教育委員会による勉強会を行っており、外部からの講師も招き研鑽を積んでいる。外部研修も参加を奨励する体制がとられており、個々の職員が年間複数回受講する機会が得られており、ミーティングの機会や報告書、資料ファイルの閲覧において伝達講習もなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市の連絡協議会に参加し情報交換などをおこなっている。また、職員レベルでのネットワーク「各駅停車」にも参加している。連絡協議会において管理者は相互評価で他ホームを訪問、見学する活動に参加でき、得るものが多く有意義な機会をホームの中で活かしていきたいと延べられた。1日交換研修もおこなわれ、同業者との交流によるサービスの向上に今後も期待ができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人母体の医院からの紹介で入居というケースが多かったが、現在は出来る限り地域の方優先で入居いただいている。本人、家族に見学していただき、空室があつて可能な場合はショートステイを体験することにも対応できる。家族からの情報収集、協力がまず重要であり、家族との関わりを切ることがないよう徐々にホームに馴染んでいただいている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>個別対応が出来る時間、ことに夜勤時には入居者との会話の時間も多くもつことができる。意向や思いを伺う中で、入居者との心とむ言葉や表情のやり取りから職員自身も癒されるひと時がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者基本情報やケース記録に書き込んだり、日常の会話や表情の中から入居者の意向を把握し支援にあたっている。プランに、その方のそれまでの生き方、暮らしぶりがより反映できるよう、機会があれば入居者の自宅へ立ち寄り家族から情報をいただくことも計画作成担当者はおこなっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスにおいて、本人、家族の意向、要望、職員全員の意見を集約してプラン作成をおこなっている。また、医師に相談しアドバイスをサービス内容に反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当制をとっており、毎月モニタリングにおいて定期的(6ヶ月毎)な見直しの他、状態の変化や本人、家族の意向に沿って随時見直しも対応している。プランの目標に沿った記録に心がけ、効率化を図るべくバイタルチェック表の記録などの改良を検討しており、いずれもプランと日々の支援への反映に繋げている。</p>		

グループホーム 虹

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス施設2階の訓練室において、理学療法士による機能訓練を受けることができる。通院支援がなされている他、家族のホームへの宿泊も対応可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医院を主治医とされている入居者が多いが、入居者の希望に沿ってかかりつけ医への継続した受診を支援し、通院支援もおこなっている。いずれも受診結果は、家族の面会時、電話にて報告している。週に1回、母体医院より医師が往診し健康管理がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの指針をもとに、本人、家族と医療機関、ホームによる三者の話し合いをおこない、随時状況に対応することとしている。今後、医療支援も必要とされる入居者もおられる為、母体法人である医院との連携により本人、家族に安心、信頼を頂ける支援に努めたいとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への対応や言葉かけ、職員間の会話においても気づきがあれば、互いにその場で伝え合うことを心がけている。排泄に関することなどは、出来る限り小さな声で周囲に配慮しながらトイレ誘導をおこなっている。記録物は事務所にて管理、保管をきちんとされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな生活の流れはあるが、就寝時間も、遅くまでテレビを見て寛ぎたい方は自由にさせていただいている。外出、食事など個別のニーズに沿って柔軟な対応に努めている。職員はどうしても業務に割かれる時間が多い中でも、ゆっくりと個別対応ができるよう常に配慮し支援にあたっている。		

グループホーム 虹

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「入居者に喜んでいただける食の楽しみを」との法人本部の方針のもと、入居者の要望も取り入れられた季節感豊かな献立がたてられている。昼食時は和やかな会話と共に職員も一緒に食卓を囲んでおり、食材の下拵えや後片付けも出来る範囲で入居者も手伝っておられる。時にはホームで「店屋物」を楽しんだり、外食ではバイキングを楽しんでいただいている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2階ユニットは身体介助が必要な方が殆どの為、午前中という時間の制約はあるが、入居者の意向、要望に沿って毎日対応は可能である。入浴拒否の傾向があられる場合も、職員の交代や言葉かけの工夫で入浴を快く促し、清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	読書が好きな方には職員が図書館で本を借りてきたり、計算ドリルを熱心に取り組まれる方がおられたりそれぞれの生活歴に沿って好まれることを支援している。出来る範囲の家事には積極的に参加をお願いしており、おしぼりや洗濯物たたみ、汚物入れ用の新聞折、ホームで飼っているペットの世話など役割を持って担っていただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の意向、要望に沿って、散歩や馴染みの美容室に出かけたりと支援がなされ、職員と共に買い物に出かける方もおられる。車椅子の方が多くなっているが、出来る限り外出を楽しんでいただきたいと、お弁当を持ってのドライブや花見、外食に努めて出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に施錠はされていない。1階玄関はキッチン、リビングから見守りが届きづらい間取りとなっており、安全、防犯の為にセンサーチャイムを設置している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署立会いのもと火災避難訓練をおこなっている。夜間想定で、必ず職員全員が参加できるよう配慮しており、2回のうち1回の訓練には地域消防団、老人会、町内会役員にも参加いただき地域連携もはかっている。訓練時には入居者も自発的にタオルを口にあてて対応し参加されている。		人命第一として今後も避難に関しては訓練の反復により確認していくことに加え、災害後の復興を見据えた備えにも取り組んでいかれることに期待したい。重要持ち出し品としての入居者基本情報のファイリングの工夫とそのことに関する職員全員の確認や、非常時の最低限の備蓄などが挙げられる。火災以外の自然災害に対する対応策も含め、職員会議や運営推進会議で話っていられることに期待したい。

グループホーム 虹

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好、要望に沿って各ユニットごとに献立はたてており、入居者の疾患、状態によって医師の指示を仰ぎ、栄養バランス、形態食の対応に配慮している。食事、水分摂取量はバイタル票に記録されており、一日の水分摂取量は1,000～1,500ccを目安にして勧めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階、2階とも構造上は同じであるが、2階リビングは一段高くなった畳の空間があり、今後車いすの方の生活リハビリに活用していきたいとしている。どちらもリビングの窓外の眺めもよく、カウンターキッチンからの見守りもしやすい明るく居心地のよい空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、クローゼットは備え付けとなっており、一部居室はトイレがある。清掃、換気の行き届いた明るい室内には使い慣れた持ち込みの家具、調度品も多く、「その人らしい」部屋作りの支援がなされている。入居間もない方の部屋には、壁面に家族の写真を多く貼り気持ちが落ち着き和んでいただけるようにとの配慮がなされていた。		